

日経平均株価

3万8787円38銭

▼132円88銭(前日比)

TOPIX

2745.62

▲8.08(前日比)

2024
5/20
月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社
〒541-0058
大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7
TEL 06-6105-1904



ここから狙える半導体は？

ディスコやTOWAなどに注目



AI 向けへの拡大基調は不変

AI 向けへの拡大基調は不変
 うえ、生成AIの拡大に
 現れている
 底打ち感
 くもの、
 低調さが続
 設備投資は
 民生品向け
 んでいる。
 億円を見込
 増の126
 45・5%
 益で前期比
 連結営業利
 25年3月期は
 TOWA(631
 25年3月期は
 ラズマダイサー、グ
 PE(レーザーナ
 見通し。高性能のS
 %増の271億円の
 前年同期比59・3
 示で連結営業利益で
 第1四半期のみの開
 6) 25年3月期は
 ディスコ(614

AI普及で業績拡大不変

主要企業の決算発表が一巡した。昨年からの指数の上昇を牽引した半導体を中心とするハイテク株はマーケットの期待値が高すぎた故にアナリストコンセンサスを下回る次期待想から決算発表後に売られる銘柄も少なくなかった。しかしながらこれら銘柄はAIの普及加速による中長期的な業績拡大は不変であり、ここからは銘柄が選別を進めたいと改めてハイテク株の物色が始まると見ている。今後の業績予想から注目できる銘柄を個別でピックアップしてみた。

日経平均の日足チャート



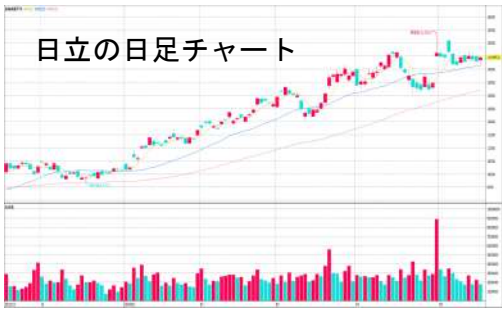
で3000億円(前期比39・2%増)を見込んでいたが、控え目な予想と見られる。パワーツール向けでリチウムイオン二次電池が、PC向けでコネクティブティモジュールが減少するものの、コンデンサがモバイルデバイス向けで大きく増加する。太陽誘電(6976) 25年3月期は連結営業利益で200億円(前期比2・2倍) 予想も更なる上乗せあるとの見方。

5月第1週の動意銘柄

日立 続急伸し最高値

2桁増益で分割と自社株買い

3連休明け30日、日立製作所(6501)が続急伸、最高値を更新した。25年3月期の業績予想について、連結営業利益で前期比13.1%増の8550億円を見込んだ。同時に6月30日を基準日に1対5の株式分割を行うことと、発行株の2.27%にあたる2100万株、2000億円を上限



EMスリ急落し新安値
EMスリー(2413)が急落、年初来安値を更新した。前24年3月期決算を発表、連結営業利

益で前の期比10.6%減の643億8100万円となり、続く今期も670億円(700億円と回復が鈍いことが嫌気された。製薬メーカーでは、新型コロナウイルスに関連した売上の剥落や製薬企業上の予算トレンドが改善するタイミングについて依然不透明感が高いという。

ペプチドリム 拡大提携
Novartis社のペプチド創薬における提携拡大を発表したことが好感された。今回の契約は、2019年に発表したたペプチド-薬剤複合体(PDC)の共同研究開発の取り組みを拡大するもの。

レーザテック 営業利益倍増

進捗率は86.7%に達し、受注高が1

1日、レーザテック(6920)が急伸。24年6月期第3四半期累計の連結営業利益が581億1000万円(前年同期比2.1倍)と大幅に拡大。通期計画の670億円(前期比7.6%増)に対する増(86.7%)に達し、受注高が1

日揮HD 営業赤字(修正)

急落。24年3月期

の業績予想を修正、連結営業損益で160億円の赤字から190億円の赤字(前期366億9900万円の赤字)となった。設計の配員状況や中東での資機材の需給逼迫による納期遅延などによる採算悪化を考慮し、リスク対応費用を追加的に見込んだ。

ネクスGはAI共同研究

急伸。レ

グラス(東京都千代田区)と、会話型AIにおけるエッジAIコンピュータ「AI-X-01NX」を利用した画像解析との連携について、共同研究を開始すると発表した。共同研究では、AIの目となる「AI-X-01NX」

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は反発。日経平均は前の週から558円上昇しています。米4月消費者物価指数(CPI)が予想を下回り利下げ期待が再燃、米国市場で主要指数が最高値を更新したことをフォロに水準を切り上げました。朝高のあと値を重さが意識は大引けに円超の上昇クしていまり基調を確週明けはるエヌビディアです。米長期金利が低下傾向にあるなか、決算がポジスクオンの動きでしょう。デイ部仕込みを終え、状況を確認しながらエックした好決算銘柄のなかから半導体・AI関連へ本格的に買い出動する考えです。 花咲翁



半導体・AI関連へ買い出動

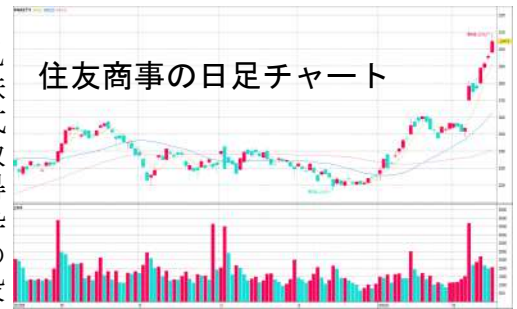
22日に予定されている決算が最大の関心事が、タイプなら世界的にリスコやTOWAなど一

上での画像解析と、会話型AIとの組み合わせの有効性と市場性を見極めることを目的とし、病院やホテルの受付、大型店舗、観光・交通案内など多様なシーンで活用できる新しいサービスの共創を目指している。

住友商事は最高値

37%増益で自社株買いも

住友商事は2日、37%増益で純利益が前年比37%増の52億3000万円を計上した。5月20日の最高値は1805円30銭で、前日比1.5%上昇した。



住友商事の日足チャート

自己株式取得枠の設定を発表した。

イビデンは2ケタ減益

イビデン(4062)が急落。25年3月期の業績予想を発表、連結営業利益で前期比11.7%減の1420億円と減益を見込んだこと

5月第2週の動意銘柄

ヨシコン22%営業増益

連休明け7日、ヨシコン(5280)がストップ高。25年3月期は連結営業利益で前期比22.1%増の37億円を見込んだ。地元密着

型仕入れと実需に基づいた企画を徹底し、販売用不動産の回転率を高めていく。

Birdmanの営業損失

Birdman(7063)が急落。24年6月期第3四半

が嫌気された。生成AI用サーバー向けの需要は引き続き堅調に推移しているが、パソコンや汎用サーバー向けの需要は厳しい状況が継続している。

ストリームM24%増益

ストリームメディアアコーポレーション(4772)が後場急伸。24年12月期の第1四半期決算を発表、連結営業利益で前年同期比23.6%増の2億3200万円と大幅な増益となったことが好感された。大型コンサートを中心に16公演開催し、約55万人を動員した。

健康をサポートする水[®]

医療機器の技術と品質を、
ご家庭のウォーターヘルスケアに。

株式会社 **日本トリム**



電解水素水整水器
TRIM ION Refine



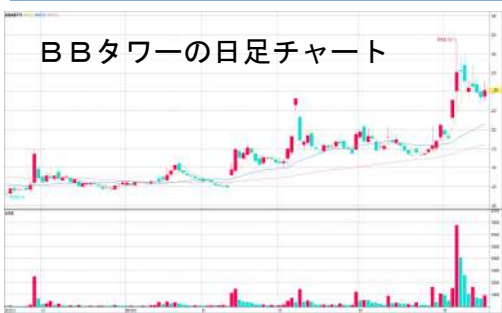
株式会社 **日本トリム**
東証プライム (証券コード: 6788)

お問い合わせは
0120-328-106
お電話の承り時間: 午前9:00~午後6:00 (土・日・祝日は休業日)

BBタワーがS高

第1四半期営業黒字に浮上

7日、ブロードバンドタワー（3776）が急伸、ストップ高まで買われた。同社は2日の取引終了後、24年12月期の第1四半期（1〜3月）決算を発表、連結営業利益で7600万円（前年同期比3400万円の赤字）となったことが好感された。新大手町サイトの契約率・稼働率が水準を維持するなか、データセンターのサービス全体の構造改革を推



BBタワーの日足チャート

進したことで黒字に浮上した。

三菱重コンセンサス届ず

8日、三菱重工業（7201）が急落。同社はこの日の13時30分に25年3月期の業績予想を発表、連結事業利益で前期比23・9%増の3500億円と増益を見込み、アナリストコンセンサスを下回ったことが嫌気された。

インソース上振れ期待

9日、インソース（6200）がストップ高。前日取引終了後に発表した24年9月期第2四半期累計の連結決算は、営業利益24億円（前年同期比24・4%増）で着地、通期予想は4

5億9000万円（前期比16・5%増）を据え置いたが、直近3カ月の1〜3月期の増益率は3割を超えており、収益上振れを期待した買いを集めた。

チャームケア82%増益

チャーム・ケア・コーポレーション（6062）が大幅に3日続伸。同社は7日の取引終了後、24年6月期の第3四半期累計（7〜3月）決算を発表、連結営業利益で前年同期比81・8%増の24億7800万円となった。課題とし

ロームは68%営業減益

9日、ローム（6963）が急落。25年3月期は連結営業利益で前期比67・7%減の140億円と大幅な減益を見込んだことが嫌気された。産業機器市場は下期には回復基調に転じると見込むもの

コーセーがストップ高

の、上期においては在庫調整や需要低迷による厳しい環境が続くとしている。

コーセー（4922）がストップ高。24年12月期の第1四半期（1〜3月）決算を発表、連結営業利益で前年同期比35・5%増の79億200万円と大幅な増益となったことが好感された。アルビオンの「エレガンス」が大きく伸び、メイクアップブランドの「ジル」が堅調に推移した。

買いシグナル点灯

先週の東京株式市場は反発しました。このところ上値を押さえていた25日線、75日線、5月限SQ値を突破したことに加え、4月19日安値（3万6733円）以降の戻り高値であった5月7日高値（3万8863円）をブレイクし日足二段上げとなったことで買いシグナルが点灯しました。これらの変化により3月22日高値（4万1087円）以降の調整波動は4月19日で完了し、再び上昇波動入りしたものと思われ

ます。今後の押し目は今までレジスタンスラインと意識されていた3万8500円近辺がサポートラインとして機能することでしょう。先週で決算発表がほぼ一巡し16日段階の日経平均の一株利益（EPS）は2358・80円となり、株価収益率（PER）は16・5倍に低下しました。今後は3月末のPER17倍まで買われるとして計算すると4万0100円がターゲットとなります。

日々勇太朗



レノバ大幅減益続く

9（951）が急反落。25年3月期の連結業績で、営業利益10億円（前期比80・1%減）と前期に続いて大幅減益を見込んだことが嫌気された。前期に運転を開始したバイオマス発電所の通年寄与と御前崎港バイオマスの運転開始により、売上高71

8億円（同60・5%増）と大幅増収を見込むが、発電所運転開始に伴う償却費負担が収益を圧迫する。

新コスモス電機 (6824)

化学物質測定新製品投入

4月の省令改正施行でニーズ高まる

タ XP-3320 I I-V」を4月10日から新たに発売。作業場などの

海外展開にも期待

新コスモス電機（6824）は家庭用ガス警報器でトップを誇り、独自のガスセンサー技術への評価は高く、電力業界や石油化学業界向けなどの定置式ガス検知警報器や業務用携帯型ガス検知器を含めて幅広く製品を展開している。

家庭用ガス警報器では海外市場で米国向け電池式メタン警報器や中国向け家庭用警報器の販売が好調に推移。工業用定置式ガス警報器ではエレクトロニクス業界向けをはじめとして海外向けガス検知警報機が伸びており、25年3月期は連結売上高で416億6100万円（前期比8.1%増）と増収を計画している。

作業場などの化学物質をリアルタイムに測定するハンディタイプの「化学物質リアルタイムモニ

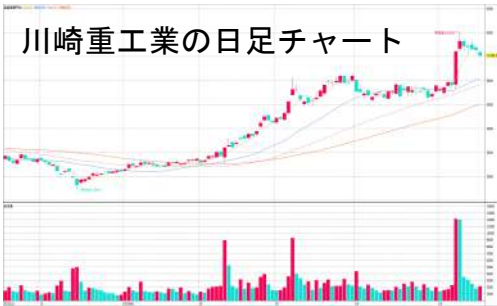
化学物質をリアルタイムに測定し、健康被害リスクの見積り・効果確認に使用が可能。労働安全衛生法で化学物質の管理について法令による対策が強化されるなかで、23年4月に続き24年4月も省令改正に伴う一部施行も行われることからニーズが高まろう。

海外ではシカゴの100%出資現地法人「New Cosmos USA, Inc.」を通じてアメリカ全土へのメタンガス検知器の横展開とガス事故が起こっている世界中の国々への展開も引き続き期待できよう。



特選銘柄

川崎重工業の日足チャート



需要の増加と航空宇宙分野の防衛事業への参入が好まれる見込み。航空宇宙分野の防衛事業への参入が好まれる見込み。

川崎重S高で最高値

25年3月期2.8倍事業増益

川崎重工業（7009）は9日、25年3月期決算を発表し、営業利益が前年同期比2.8倍増を達成した。売上高も前年同期比1.5倍増を記録した。

芝浦メカは上振れ着地

スポーツ&エンジン事業における四輪増産などによる増収を計画している。

週末10日、芝浦メカトロニクス（6590）がストップ高。同社は9日の取引終了後、24年3月期決算を発表し、連結売上高が前年同期比1.5倍増を達成した。営業利益も前年同期比1.5倍増を記録した。

サイババズ赤字へ修正

サイババズ（7069）がストップ安まで売られた。同社は9日の取引終了後、24年3月期決算を発表し、連結最終損益が前年同期比1.5倍増を達成した。

日新24%の自社株買い

日新（9066）がストップ高買い気配。9日取引終了後、450万株、140億円の上限とした自社株買いを開始した。株式立会外買付取引（ToS）は1.2億株、140億円の上限とした。

～決算情報～

TOA

今期も22%増益見込む デジタルシフトとサプライチェーン効率化

TOA(6809)の24年3月期の連結決算は、売上高488億1400万円(前期比8.2%増)、営業利益30億2800万円(同76.8%増)と増収大幅増益で着地した。

国内は交通市場向けが伸長。海外ではアメリカで官公庁や教育市場向け、カナダで病院や教育市場向けの納入が進み、為替の影響で売上高が増え、利益が大幅に拡大したほか、アジア・パシフィック、欧州・中東・アフリカ、中国・東アジア向けいずれも売り上げが伸び、利益が拡大した。

25年3月期は売上高520億円(前期比6.5%増)、営業利益37億円(同22.2%増)を予想した。中期経営基本計画に沿ってデジタルシフトとサプライチェーン効率化を進めることで売り上げ、利益を拡大する。

ハリマ化成G

収益体質強化と販売増 前期赤字縮小し今期黒字浮上

ハリマ化成グループ(4410)の24年3月期の連結決算は、前回予想の売上高930億円に対して923億3000万(前期比2.3%減)、営業損益4億5000万円の赤字に対して2億1100万円の赤字(前期17億6000万円の黒字)で着地、欧州の景気低迷によるローター事業の販売減少で売上高は計画を下回ったが、国内事業での値上げ効果と合理化による原価低減により赤字幅が縮小した。

24年3月期は売上高1020億円(前期比10.5%増)、営業利益21億円を予想。収益体質強化と景気回復に伴う販売増により、2ケタ増収で黒字に浮上する。配当は第2四半期末、期末各々21円、合わせて年間42円を継続。



TOA(6809)の24年3月期の連結決算は、売上高488億1400万円(前期比8.2%増)、営業利益30億2800万円(同76.8%増)と増収大幅増益で着地した。国内は交通市場向けが伸長。海外ではアメリカで官公庁や教育市場向け、カナダで病院や教育市場向けの納入が進み、為替の影響で売上高が増え、利益が大幅に拡大したほか、アジア・パシフィック、欧州・中東・アフリカ、中国・東アジア向けいずれも売り上げが伸び、利益が拡大した。

TOWA 続騰し最高値

25年3月期46%営業増益

5月第3週の動意銘柄

カバー32%増益

TOWA(6315)の24年3月期の連結決算は、売上高1020億円(前期比10.5%増)、営業利益21億円を予想。収益体質強化と景気回復に伴う販売増により、2ケタ増収で黒字に浮上する。

TOWA(6315)の24年3月期の連結決算は、売上高1020億円(前期比10.5%増)、営業利益21億円を予想。収益体質強化と景気回復に伴う販売増により、2ケタ増収で黒字に浮上する。

TOWA(6315)の24年3月期の連結決算は、売上高1020億円(前期比10.5%増)、営業利益21億円を予想。収益体質強化と景気回復に伴う販売増により、2ケタ増収で黒字に浮上する。

TOWA(6315)の24年3月期の連結決算は、売上高1020億円(前期比10.5%増)、営業利益21億円を予想。収益体質強化と景気回復に伴う販売増により、2ケタ増収で黒字に浮上する。

アシックス株式分割

アシックス(7936)がストッブ高。10日の取引終了後、25年3月期の業績予想を発表、連結営業利益で前期比7.0%増の580億円を見込んでいます。同日に6月30日を基準日として1対4の株式分割を行う。

～決算情報～

カプコン

25年3月期8期連続最高益 「祇(くにつがみ)」などの新作投入

カプコン(9697)の24年3月期は連結売上高1524億1000万円(前の期比21.0%増)、営業利益570億8100万円(同12.3%増)ととなった。eスポーツ展開をリードする「ストリートファイター6」や24年3月に発売した「ドラゴンズドグマ2」に加えて、IP認知拡大と新たなファン層の獲得を図るプロモーションなどが寄与した。

25年3月期は売上高1650億円(前期比8.3%増)、営業利益で640億円(同12.1%増)と12期連続の営業増益かつ全ての利益項目で8期連続最高益を見込む。完全新作タイトルの「祇(くにつがみ)」などの新作投入を計画して「全社一丸となって成長戦略を進める」(宮崎智史副社長執行役員CHO)と意欲を見せている。

タクミナ

3期連続の最高益を計画 高性能ソリューションポンプの伸び続く

タクミナ(6322)の25年3月期は連結売上高で115億円(前期比4.4%増)、営業利益で16億円(同1.1%増)、純利益で12億円(同0.4%増)と4期連続での増収増益かつ3期連続での最高益を見込んでいる。高性能ソリューションポンプは主力製品の「スムーズポンプ」が二次電池関連の設備投資需要に支えられて前期は前の期比13.9%増の44億2300万円と大幅に拡大、汎用型薬液注入ポンプやケミカル移送ポンプ、計測機器・装置などを含めて全部門で増収を達成している。大阪取引所での決算会見の席上、**山田圭祐社長**は「中長期視野でのEVに絡む設備投資意欲は衰えていない」として自動車業界向け筆頭に高性能ソリューションポンプの更なる拡大に意欲を見せた。



見と月く想減比
込大(前上期上益2
んだ幅期)は回5益
な比は2り、0な
利25、0が
益・0億円
・2億を
大倍)円
を3
き

古河電大幅高で新値

前期大幅上振れ 今期営業益倍増

古河電工(145)は4日、14億5000万円の営業利益を計上し、前期比1.1倍の増益を達成した。これは、高付加価値製品の拡販、生産性の向上により収益性が大きく改善する。

と4比連の了社に丹
が01結業後、は4(3
好億7営績、1日0
感円・業予、24日
されを業利想5の
たを見益をを年3の
。込増で表、月引
。むの前、期終
同こ6期、期

ミツコシイセタン4連騰

で式でら取得の円%)対(時
消をで1得設の)す(発
却1、0期の)自)る(行
す1取月間を)己)割)合)上
。1得3はを)株)合)合)限
。2得1はを)式)合)合)8
9月3はを)取)合)合)5
日全1日5表)得)合)合)0
付株まか。了)株)取)合)合)万
株まか。了)株)取)合)合)株

力プロジェクト案件の増加や自動車生産の拡大、高付加価値品の拡販、生産性の向上により収益性が大きく改善する。

バルカーがストップ安

バルカー(7995)がストップ安まで売られた。25年3月期の業績予想を公表、連結営業利益で前期比8.5%減の65億円と前期に続き減益を見込んでいた。先端産業市場向けは半導体関連景況の変動を受けて減少している。

サワイ4割増益分割増配

サワイグループ(487)が一時ストップ高まで買われた。25年3月期の連結業績で、営業利益260億円(前期比39.6%増)と大幅増益を見込み、併せて9月末に1株を3株へ株式分割、実質増配を計画したことを好感した買いを集めた。薬価下支えの影響や価格政策の見直しにより収益性が大きく改善する。

～決算情報～

六甲バター

大和ハウス工業

1Q減収ながら黒字浮上 チーズ製品の値上げ効果大きい

実質最高業績更新つづく 配当下限を145円に引き上げ

六甲バター(2266)の24年12月期第1四半期の単体決算は、売上高103億1400万円(前年同期比3.2%減)、営業利益4億4300万円(前年同期2億7500万円の赤字)、最終利益3億6900万円(同2億1100万円の赤字)と減収ながら黒字に浮上した。

5月末にチョコレート製品の販売を終了したことから売上高が減少したが、チーズ製品の値上げ効果が大きく、原材料の安定調達や経費削減、生産ラインの安定稼働により損益が改善した。

通期は売上高453億円(前期比2.3%増)、営業利益18億円(同2.9倍)、最終利益10億5000万円(同2.4倍)と前回予想を据え置いた。年間配当は20円を計画。

大和ハウス工業(1925)の24年3月期の連結決算は前回予想を上回り、売上高5兆2029億1900万円(前年同期比6.0%増)、営業利益4402億1000万円(同5.4%減)で着地した。米戸建住宅の好調が続き、開発物件の売却も順調で、売上高は5兆円を突破して過去最高を更新、退職給付数理差異の影響を除くと実質増益で営業利益も過去最高になった。

25年3月期は売上高5兆2500億円(前期比0.9%増)、営業利益4000億円(同9.1%減)を見込む。増収で数理差異の影響を除くと営業利益も実質増益で過去最高を更新することになり「新中期計画で配当の下限を145円に引き上げた」(芳井敬一社長)としており連続増配を予定。



15日、ソニーグループ(6758)が3連騰。14日の取引終了後、25年3月期の業績予想を発表、連結営業利益増39.2%増と前期比130.0%増の1兆1300億円とアナリストコンセンサスを下回ったが9月30日を基準日として10日株分けと300万株(発行済株式総数に對する割合は22.5%)の増収(6億円の自己株式取得)の決定を発表し

ソニーグループ3連騰

1対5株式分割と自社株買い

たことが好感された。

堀場製作所は急落

堀場製作所(6856)が急落。14日の取引終了後、12年12月期の第1

和弘食23%営業増益

売先である外食向け業務用製品の販売が引き続き好調という。

Kudan(44)

25)が大幅反発。日系大手自動車メーカーのプラットフォーム

四半期(1~3月)決算を発表、連結営業利益で前年同期比4.2%減の10億9000万円と減益となったことが嫌気された。製品売上構成の変化に伴う利益率の低下に加え、水素ビジネスでの積極的な投資を継続したことなどが要因。

和弘食(2813)がストップ高。25年3月期は連結営業利益で9.2%増の1.28億2900万円と大幅な増益を見込んだ。北米のラーメン市場拡大により、主要販売先である外食向け業務用製品の販売が引き続き好調という。

Kudan(44)が大幅反発。日系大手自動車メーカーのプラットフォーム

16日、和弘食(2813)がストップ高。25年3月期は連結営業利益で9.2%増の1.28億2900万円と大幅な増益を見込んだ。北米のラーメン市場拡大により、主要販売先である外食向け業務用製品の販売が引き続き好調という。

今回の協業を踏まえて自動車OEMが予定するFIM(フルド実証)に引き続き協力、性能・運動性向上、革新的な活用ユーザーグループの創出に取り組むとしており、自動車分野への人工知能技術実装を期待した買いが向かった。

～決算情報～

立花エレテック

英和

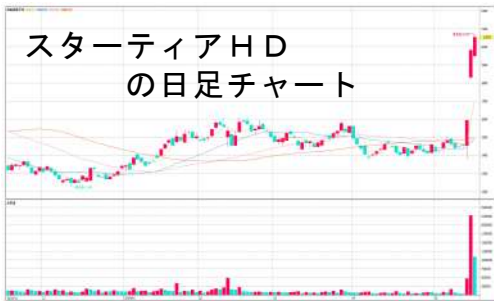
24年3月期過去最高業績
25年3月期は下期から巻き返し

立花エレテック（8159）の24年3月期決算は連結売上高で2310億4200万円（前の期比1.7%増）、営業利益107億6400万円（同4.3%増）、純利益84億7100万円（同8.0%増）と過去最高業績を達成した。半導体デバイスとその他以外ではFAシステム、施設で増収を達成。施設事業はデータセンター向け受変電設備が伸び、前の期比で19.7%増収を達成している。

25年3月期は売上高2280億円（前期比1.3%減）、営業利益100億円（同7.1%減）、純利益70億円（同17.4%減）を見込む。半導体デバイス事業は在庫調整の影響が継続するとし、決算発表の席上、**布山尚伸社長**は「下期に売り上げを積み増している」とし下期回復を見通す。

24年3月期は上振れ着地
稼働率上昇、付加価値営業で採算向上

英和（9857）の24年3月期は連結売上高で従来予想の420億円に対して432億9200万円（前期比4.9%増）、営業利益で22億5000万円に対して23億2500万円（同22.8%増）と上振れ着地した。トラックシャーシの供給不足の影響を受け、防災・復旧、国土強靱化に関連する特殊車両の販売が減少したが、昨年度から積み上がった受注残を着実に売り上げへ転化したことに加え、設備稼働率の上昇に伴い、造船業界、産業用装置・重電設備業界向けの販売が増加。高付加価値営業の強化に取り組んだことで採算性も向上した。25年3月期は売上高440億円（前期比1.6%増）、営業利益23億5000万円（同1.1%増）を見込み、年間配当は70円（前期65円）へ引き上げる。



7にき3ので発2
円加増22の前表、5年
（え益22期期、5年
前）て益55比連3
期6年、を、4億比結月
9間、見込増と9・営期
9でこと益に前5業予
）と続の増益を引5同更
9）と続の増益を引5同更
）と続の増益を引5同更

スターティア一時S高
今期も増益見込み大幅増配

16日、と大幅な増配意向で、利回りめられた。と大幅な増配意向で、利回りめられた。

と大幅な増配意向で、利回りめられた。

レアジヨブ71%営業減益

週末17日、住石ホールディングス（1514）が連続ストップ高。15日に筆頭株主の麻生と資本業務提携すると発表されたことが引き続き材料視された。麻生は同社の議決権割合の49.08%を保有するが、市場で買増し議決権保有割合を50.0%超に押し上げる見込み。主力の石炭事業の安定成長と九州地区での事業拡大、新規事業でも協業を強めるとしている。

週末17日、住石ホールディングス（1514）が連続ストップ高。15日に筆頭株主の麻生と資本業務提携すると発表されたことが引き続き材料視された。麻生は同社の議決権割合の49.08%を保有するが、市場で買増し議決権保有割合を50.0%超に押し上げる見込み。主力の石炭事業の安定成長と九州地区での事業拡大、新規事業でも協業を強めるとしている。

住石HD連続ストップ高

週末17日、住石ホールディングス（1514）が連続ストップ高。15日に筆頭株主の麻生と資本業務提携すると発表されたことが引き続き材料視された。麻生は同社の議決権割合の49.08%を保有するが、市場で買増し議決権保有割合を50.0%超に押し上げる見込み。主力の石炭事業の安定成長と九州地区での事業拡大、新規事業でも協業を強めるとしている。

3月期の361億円で、営業利益は113億6400万円、純利益は84億7100万円と過去最高業績を達成した。25年3月期は売上高2280億円（前期比1.3%減）、営業利益100億円（同7.1%減）、純利益70億円（同17.4%減）を見込む。半導体デバイス事業は在庫調整の影響が継続するとし、決算発表の席上、**布山尚伸社長**は「下期に売り上げを積み増している」とし下期回復を見通す。

日製鋼防衛受注6割増

1）が大幅増収、上場来高値を更新した。決算説明会で2024年3月期の防衛事業の受注額が前年比6割増の113億6400万円と、営業利益は113億6400万円、純利益は84億7100万円と過去最高業績を達成した。25年3月期は売上高2280億円（前期比1.3%減）、営業利益100億円（同7.1%減）、純利益70億円（同17.4%減）を見込む。半導体デバイス事業は在庫調整の影響が継続するとし、決算発表の席上、**布山尚伸社長**は「下期に売り上げを積み増している」とし下期回復を見通す。

された。リスクリング事業では、より「英語が話せるようになる」サービスを目標として、学習サイクルの改善やテクノロジの活用による学習体験の向上に取り組む、オンライン学習サービスの高付加価値化を推進する。

～決算情報～

大森屋

2Qは計画を大幅に超過

業務用需要増と価格改定で大幅増加

大森屋(2917)の24年9月期の第2四半期累計(10～3月)決算は、連結売上高で従来予想の73億5000万円に対して81億9000万円(前年同期比17.0%増)、営業利益で1億7500万円に対して3億7000万円(同1.6%増)、純利益で1億1000万円に対して2億1100万円(同8.9%増)と計画を大幅に超過して着地した。業務用海苔がコンビニエンスストアなどの需要増と価格改定の影響により大幅に増加し、家庭用海苔も順調に推移。利益面では、コスト削減、経費の効率的な使用に加え、価格改定が消費者に受け入れられた。

通期は売上高149億円(前期比4.6%増)、営業利益4億1500万円(同10.7%増)、純利益2億6000万円(同6.3%増)の従来予想から変更はない。

あじかん

24年3月期営業益4.9倍

野菜加工品、冷凍食品や輸出も拡大

あじかん(2907)は24年3月期決算は連結売上高502億4000万円(前の期比5.9%増)、営業利益17億1000万円(同4.9倍)、純利益15億9000万円(同5.7倍)と大幅な増益となった。

価格改定の浸透や、野菜加工品、調理済冷凍食品なが拡大したことや、北米・オセアニアなどを中心とした海外輸出拡大藻収益を押し上げた。

25年3月期は売上高510億円(前期比1.5%増)、営業利益16億円(同6.4%減)、純利益12億円(同20.5%減)を見込む。業務用食品では、玉子製品の販売促進に加え、生産効率の向上に向けた取組強化、物流効率改善に向けた物流拠点の整備を進める。ヘルスフードでは、新製品開発とともに、焙煎ごぼうを活用した新市場開拓を進める。

eWeLL

契約ステーション数大幅増

第1四半期23%増収で増益着地

eWeLL(5038)の24年12月期の第1四半期(1～3月)決算は売上高5億7400万円(前年同期比23.4%増)、営業利益2億3400万円(同4.9%増)、純利益1億6100万円(同4.4%増)と増収増益で着地した。

主力サービスの「iBow」の新規顧客獲得と「iBow事務管理代行サービス」の推進に注力し、1Q末での契約ステーション数は2698件(前年同期比17.9%増)と大幅に増加、月次平均解約率(レベニューチャーンレート)は0.15%と例年通り低い水準で推移した。

通期は売上高25億6000万円(前期比23.7%増)、営業利益11億1100万円(同22.3%増)、純利益7億4900万円(同22.3%増)と従来予想を据え置いた。

荒川化学工業

2桁増収黒字浮上見込む

全事業増収で機能コーティング利益倍増

荒川化学工業(4968)は25年3月期の連結業績について、売上高820億円(前期比13.5%増)、営業損益20億円の黒字(前期26億1700万円の赤字)、最終損益18億円(同49億4100万円の赤字)と2ケタ増収で黒字浮上を見込んだ。

千葉アルコンの減価償却負担は重いが生産量は順調に拡大。拠点やプラントの統廃合を含む既存事業の新陳代謝加速と「付加価値製品を拡販することで収益力を強化する」(高木信之社長)考え。全事業増収で機能性コーティングが利益倍増、製紙・環境も2ケタ増益、ファイン・エレクトロニクスは黒字浮上を見込み、粘接着・バイオマスは大幅に赤字を縮小する。さらに、光硬化型樹脂や精密研磨剤などの新プラントが完成、半導体など先端材料用ファインケミカルプラント建設も進める。

～決算情報～

ステムセル研究所

大幅増収増益で最高業績 設立25周年記念して25円の初配当

ステムセル研究所（7096）は25年3月期の単体業績について、売上高30億円（前期比20.9%増）、営業利益6億円（同45.0%増）、最終利益5億円（同60.8%増）と前期を上回る大幅増収増益で連続最高業績更新を見込んだ。

投資先の株式売却による特別利益13693万円を計上することから、第2四半期末に設立25周年を記念して25円の初配当を実施する。

主力の細胞バンク事業でデジタル・マーケティングとリアル・マーケティングを着実に推進。中期的に保管検体数を出生数の3%程度まで高めることを目標に、独自ネットワークを活用した新プロダクトやサービス開発、関連企業への出資やM&Aを進めることで高成長を続ける。

日本トリム

25年3月期過去最高業績 前期は計画超で29.5%営業増益

日本トリム（6788）の24年3月期決算は連結売上高で204億1400万円（前期比13.7%増）、営業利益30億800万円（同29.5%増）と計画超での大幅増益となった。職域販売部門では、営業活動が正常化し、セミナー開催数がコロナ禍前の水準に回復してきたことに加え、スポーツ分野、美容分野における販路開拓が引き続き順調に進捗している。

25年3月期は売上高228億円（前期比11.7%増）、営業利益35億7000万円（15.9%増）と共に過去最高を更新する見通し。インドネシアでのボトルドウォーターについては自社工場の建設も検討しており、決算説明会の席上、森澤紳勝代表取締役会長兼CEOは「2027年3月期に売上高320億円を目指す」と意欲を見せた。

グルメ杵屋

24年3月期は大幅計画超 レストラン回復加速し黒字体質戻る

グルメ杵屋（9850）の24年3月期は連結売上高で従来予想の364億6600万円に対して370億3300万円（前期比23.9%増）、営業利益で2800万円に対して4億2200万円（前期3億8600万円の赤字）、純利益で4億2200万円に対して10億9600万円（同11億5000万円の赤字）と大幅な計画超で着地した。レストラン事業では、人流の回復やインバウンド需要の再開などにより業績回復は加速し、機内食事業も、航空会社各社の復便が進み、黒字体質に戻っている。

25年3月期は売上高395億9300万円（前期比6.9%増）、営業利益6億4900万円（同53.7%増）、純利益2億1500万円（同80.3%減）を見込む。レストラン事業では、コストの改善を行っていく。

クオルテック

利益3Qで通期計画超過 分析検査や断面研磨工程作業好調

クオルテック（9165）の24年6月期第3四半期累の単体決算は、売上高28億1600万円（前年同期比10.6%増）、営業利益4億円（同25.7%増）、最終利益2億6400万円（同14.4%増）と2ケタ増収増益で着地、売上高の進捗率は78.2%と例年を上回り利益は通期計画を超過した。

信頼性評価は高単価で難易度の高い分析検査や断面研磨工程作業の受注が好調で、新規顧客からの受注やより高度なパワーサイクル試験の受注も伸長。微細加工は車載、メディカル分野の加工需要の回復が遅れているものの、その他事業では医療分野の受託試験や表面処理の基板評価が引き続き好調に推移している。

業績拡大に伴い、期末一括配当を42円（前期37円）へ増配を予定。

～ 決算情報 ～

DmMiX
新コスモス電機

1Q減収減益ながら高進捗 ハイブリッド業務や新事業開拓も

ダイレクトマーケティングミックス（7354）の24年12月期第1四半期の連結決算は、売上収益59億4500万円（前年同期比31.6%減）、営業利益7億8400万円（同52.0%減）、最終利益4億5500万円（同57.6%減）で着地した。

インバウンド業務縮小により、減収減益を余儀なくされたが、通信インフラからのアウトバウンド／ハイブリッド業務受託は堅調に推移、新事業領域の開拓も進んだ。利益は高収益のスポット業務の受注もあり、通期予想に対しては高い進捗率で推移している。

通期は売上収益210億円（前期比21.8%減）、営業利益10億円（同18.1%減）、最終利益6億5500万円（同2.1倍）と前回予想を据え置いた。期末一括配当3円を継続する。

25年3月期は8.1%増収 家庭用、工業用、業務用とも堅調

新コスモス電機（6824）の25年3月期連結決算は、連結売上高で385億6400万円（前の期比3.6%増）、営業利益40億8600万円（同28.2%減）、純利益29億5900万円（同20.8%減）となった。

家庭用ガス警報器関連では米国向け電池式メタン警報器や中国向け家庭用警報器が堅調に推移。海外向け警報器用ガスセンサの販売も好調で工業用定置式ガス検知警報器関連では海外市場のエレクトロニクス業界向けと中国向けガス検知警報器の販売が好調に推移。業務用携帯型ガス検知器関連はの都市ガス業界向けと鉄鋼向けが好調。

25年3月期は売上高416億6100万円（前期比8.1%増）、営業利益41億円（同0.3%増）、純利益23億8000万円（同19.6%減）を見込む。



今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0～1.8%

取引
コスト

プレミアム
空売り

独自
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら
marketpress.jpのパナーをクリック



潮流

米国株に追いつかない日本株

財務省の圧力に逆らえない植田総裁

marKet/bAnk



5月15日の米国株式市場で主要3指数が過去最高値を更新した。ダウ工業株30種平均は3万9935ドルまで上昇し、4万ドルの大台に迫った。3月28日以来、1カ月半ぶりの最高値更新となった。

多くの機関投資家が運用指標にするS&P500種株価指数は5311.76まで上昇し、初めて5300台に乗せた。ハイテク株比率が高いナスダック総合株価指数は1万6749.7まで上昇し、史上最高値を付けた。過去最高値を更新した背景は4月の米消費者物価指数(CPI)でインフレ鈍化への期待が高まったからだ。

米経済が軟着陸(ソフトランディング)に至る筋書きを織り込む動きが加速した。米国株は利下げ期待が遠のき3月21日から4月まで調整していた。この間のダウ平均の下落率は5.7%だ。この程度の調整しかしない米国株は相当強い。

インフレで物価が上昇しても個人消費は堅調で米国経済は衰えない。何年も前から米国はスタグフレーション(景気停滞とインフレの併存)になり、景気は後退するといった多くのアナリストは見通しを誤った。

米国は2022年3月から昨年、7月まで利上げを続けてきたが株式市場は上昇を維持してきた。米国は「利上げ→金

利上昇→景気減速→株安」といった一般的な動きにはなっていない。

米国政府がコロナ禍で行なってきた大規模な財政支出が経済を支え、生成AIといった技術革新が新たな需要を生み出し、経済を浮上させる役割を担っている。利下げ時期は遠のいてもいつかは必ず利下げを行なうだろうという期待が根強い。

歴史的にみて、利下げ転換までの期間が長くなること自体は株式市場にとって好都合なことなのだ。一方、日本の株式市場は日経平均が3月22日に4万1087円の過去最高値を更新するまでは米国株以上に上昇基調が強かった。しかし、4月29日に日銀が「円買い・ドル売り」の為替介入を行なった後は米株が上昇しても日本株は連動しなくなっている。

日本は「円高→株安」となる傾向が強い。さらに、植田日銀総裁は、円安が物価上昇に影響を与えていることを懸念し、利上げを行なうのではないかといいことを市場が警戒している。財務省の圧力には逆らうことができないのだろう。

潮流銘柄はダイキン工業(6367)、TOWA(6315)、ジャパンエレベーターサービスホールディングス(6544)。



岡山憲史氏(株式会社マージョットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

物価上昇で利上げを懸念



敬腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の

法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

四半期連続のマイナスはリーマンショック時以来



想が慎重な決算発表にない。今の投資家は上値を、受けることも仕方ない。調整も円強値上がりしたので

四半期連続となった。特にGDPの半分以上占める個人消費が前期比0・7%減で円安の影響での物価高の影響をものに受けている。四半期連続のマイナスはリーマンショック時以来である。円安の影響が日本にプラスに働くか期待していた投資家が日本経済全体の成長に確信を持てなくなってきたようだ。4月からは賃上げや減税により一時はプラスに転じると思われるが、やはり円安が続くと景気への懸念は続く。経済の急減速を回避できそう。米国の景気回復の懸念が残る日本との差が株価に現れているようだ。需給面でも相場の上値は重そうだ。5月10日時点の信用買い残は約4兆6970万円、信用倍率は6・44倍である。評価損率は

は▼5・81%であるが、信用の買い残は高水準である。つまり、相場が上昇しても売り需要が多いということだ。この高水準な買い残を消化するまでは戻り売りのパターンとなりそうである。チャートでは13週線(3万9033円)に頭を抑えられてる状況である。だが、5日移動平均線(3万8525円)、75日移動平均線(3万8603円)を上回って引けており、上昇が期待できる状態である。週足の一目均衡表の転換線(3万8910円)や13週移動平均線を引け値で明確に抜けてくれば、上昇に弾みがついてこよう。一方、下値は日足の一目均衡表の雲の下限(3万8387円)が意識されているようだ。先週も雲の下限を大きく割り込んでスタートした時は後場から買いが入っていたように、下値抵抗ラインといえよう。この水準には25日移動平均線(3万8370円)も位置し、意識されるとこだろう。その下は節目の3万8000円が抵抗ラインとなりそう。今週は3万8300円〜3万9200円を想定する。上値が重いなりに堅調な相場展開を想定する。(ハチロク)

先週の日経平均は前週末比約558円高となり、2週間ぶりに週足陽線となった。NYダウが4万ドルに乗せるなど史上最高値を更新する好調な海外マーケットを受けて、日本もつれ高した感じはある。先週は高く始まったも

売りに押されるケースが多く、実需売りが出ている印象を受けた相場である。日経平均は3月末比で4%安と同期間の騰落率で見ると、主要20指数で最下位となっている。1〜3月末まで約8000円強値上がりしたので

重であり、海外投資家になると期待外れであったようだ。デフレ脱却と円安で大きな増益を期待していた投資家とずれがでているようだ。16日に発表された1〜3月期のGDPも年率換算で▼2・0%となり、内需のマイナスは

は▼5・81%であるが、信用の買い残は高水準である。つまり、相場が上昇しても売り需要が多いということだ。この高水準な買い残を消化するまでは戻り売りのパターンとなりそうである。チャートでは13週線(3万9033円)に頭を抑えられてる状況である。だが、5日移動平均線(3万8525円)、75日移動平均線(3万8603円)を上回って引けており、上昇が期待できる状態である。週足の一目均衡表の転換線(3万8910円)や13週移動平均線を引け値で明確に抜けてくれば、上昇に弾みがついてこよう。一方、下値は日足の一目均衡表の雲の下限(3万8387円)が意識されているようだ。先週も雲の下限を大きく割り込んでスタートした時は後場から買いが入っていたように、下値抵抗ラインといえよう。この水準には25日移動平均線(3万8370円)も位置し、意識されるとこだろう。その下は節目の3万8000円が抵抗ラインとなりそう。今週は3万8300円〜3万9200円を想定する。上値が重いなりに堅調な相場展開を想定する。(ハチロク)

買い残高水準 上値重くする

チャートは上昇を期待

重であり、海外投資家になると期待外れであったようだ。デフレ脱却と円安で大きな増益を期待していた投資家とずれがでているようだ。16日に発表された1〜3月期のGDPも年率換算で▼2・0%となり、内需のマイナスは

星野三太郎の株街往来

～夢から醒めて現実を見る～

主要企業
業の決算発表も峠を超えた。

例年ことながら、次期の業績について2ケタ増益予想の企業でも決算発表翌日は急落するケースも少なくない。決算内容への期待感で既に株価がある程度上昇していたことから、アナリストコンセンサスが会社側予想よりもかなり強気の内容だったナリスト予想については、その企業の戦略に対してかなりの期待感を持っていることが多いことから、本来なら会社側の予想に悲観する必要はない。決算発表で会社側の話を聞くと至極当然な予想を立てていると思うので、新規に投資するならば決算発表後に株価が落ち着いてからのほうが賢明だと思ふ。

今年の決算発表で話を聞くと大半の企業で人件費増と原材料高が利益を圧迫する内容が多かった。マーケットでは年前半、「AIで全てが変わる」として酔いしれたが、現実には人が動かないと会社は機能しない。夢から醒めて現実を見て投資すべきだ。

★



New product

ハウス食品
辛味順位が倍のカレー
「選ばれし人気店」から夏季限定製品



選ばれし人気店「濃厚ビーフカレー大辛」

ハウス食品グループ本社（2810）グループのハウス食品は「選ばれし人気店」シリーズから大阪・高槻にある「ヴァスコ・ダ・ガマ」監修の「濃厚ビーフカレー 大辛」、福岡にある「ツナパハ」監修の「スリランカカレー チキン 激辛」をスーパーなどで期間・数量限定で発売している。

今回の夏季限定製品は、通常品と比較して辛味順位が倍となる。通常品と夏季限定製品を食べ比べて、その辛さを体感したい。また、「濃厚ビーフカレー 大辛」は胡椒と唐辛子が効いた甘辛さ、「スリランカカレー チキン 激辛」は唐辛子の強い辛さと、辛さの質が異なる。夏季限定製品同士を比較した辛さの感じ方の違いも味わいたい。内容量は180gで、オープン価格（税別参考小売価格361円）となっている。

新型一般車両を運行へ

近鉄GHD

10月から奈良、京都、橿原線などで



近鉄の新型車両

近鉄グループホールディングス（9041）グループの近畿日本鉄道は、10月から奈良線、京都線、橿原線と天理線で新型一般車両の運行を

企業レター

近畿日本鉄道は、10月から奈良線、京都線、橿原線と天理線で新型一般車両の運行を

開始する。今回の新型一般車両は、ベビーカーや大型荷物などを持つ乗客が気兼ねなく着席して過ごせるスペース「やさしば」を1両あたり2カ所設置。その他、夏期や冬の車内保温のために、駅に長時間停車する際に個別に扉を開閉できるスイッチや、混雑状況に応じてロングシートとクロスシートを切り換えることができるL/Cシート、車内防犯対策として防犯カメラの設置している。さらに、従来車両と比較して消費電力の45%削減など、安全と環境に配慮している。

記者の視点 相場見通し

エヌビディア決算に注目

半導体・AI関連見直し近い

5月3週目の東京市場は2週目に引き続き日経平均では3万8000円接近で押し目を拾う動きが活発化する一方で、3万9000円に接近すると戻り売りに押される動きになり膠着感の強い動きとなった。

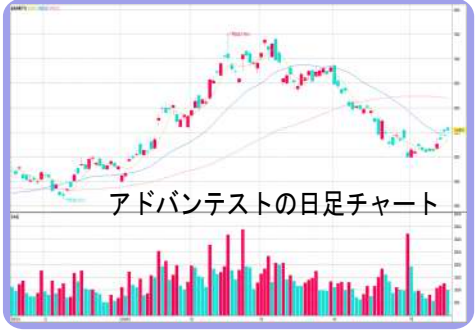
5月第2週（7日〜10日）の投資部門別売買動向（現物）では、個人が3週連続の売り越しの一方で海外投資家が3週連続の買い越しになっていた。CPIを気にしていたのは4万円まで買い上がった個人投資家だけで、決算発表をキッカケに売られていた優良株を海外投資家は静かに買っていたのかもしれない。今週の最大の注

目はエヌビディアの2〜4月決算。米国東部時間22日午後4時20分（日本時間23日午前5時20分）頃で、その40分後に決算会見が予定されているようだ。既に総収入は前年同期の3倍超などの予測が立てられているが、関心が高いのは5〜7月以降の動向。年後半にAI向け次世代GPU「GB200」の出荷が始まると既に公表されていることから、ポジティブな内容になる可能性は高い。5000円割れから出直りを見せているアドバンテスト（6857）から半導体やAI関連物色の復活を期待したい。

高齢で足が弱ってきた母のために、テレビ通販でスクワット補助機能付き座椅子を買った。身長に合わせ高さを調整できるといので購入を決めたが、届いてみると一番低い位置に合わせても身長145センチ足らずの母には高すぎて使えない。説明と違うと返品を申し入れると、一度開封すると返品に応じられないという。筆者は通信販売にクーリングオフがないことを知らなかったので、泣き寝入りするしかなかった。当然、株式投資にクーリングオフはない。銘柄の内容をしつかり確認したい。

編集後記

市場はCIPのニューロンの見方が重配の値が重いとの動きに。東京市場ではCPI内容を気にして上値が重配の動きに。東京市場ではCPI内容を気にして上値が重配の動きに。東京市場ではCPI内容を気にして上値が重配の動きに。



当面のスケジュール

- ・20日 3月第三次産業活動指数
10年物価連動国債入札
- ・21日 日銀「金融政策の多角的レバー」に関する第2回ワークショップ開催
- ・22日 3月機械受注、4月貿易統計
米4月中古住宅販売件数
4/30-5/1開催のFOMC議事録
- ・23日 5月auじぶん銀行製造業PMI
G7財務相・中銀総裁会議
米4月新築住宅販売件
- ・24日 4月消費者物価
4月全国百貨店売上高
- ・27日 日銀の国際コンファランスで植田総裁が開会あいさつ
独5月Ifo景況感指数
- ・28日 4月企業向けサービス価格指数
- ・29日 5月消費動向調査
ページブック(米地区連銀経済報告)
- ・30日 米1-3月期GDP改定値
- ・31日 4月失業率・有効求人倍率、5月東京都
区部消費者物価
4月鉱工業生産、4月商業動態統計
中国5月コンポジットPMI、中国5月製造業PMI、中国5月非製造業PMI
米4月個人所得・個人支出・デフレター

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。